

いきいき通信

vol.18

発行：左京西部いきいき市民活動センター
発行日：2015年12月1日

開館当時より、当館にてよし笛工作や、演奏練習をされている岩永省三さん。その活動ぶりは、当館のスタッフも驚くほど。今回は岩永さんにその「よし笛」の魅力を語っていただきました。

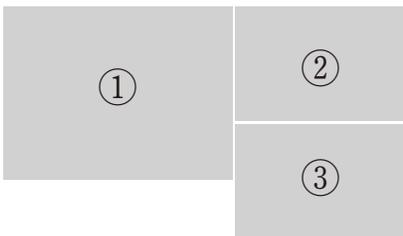
この左京西部いきいき市民活動センターが開館してからもうすぐ5年になるうとしています。日々、様々なジャンルのの方が当センターを利用してくださっている中で、今回は、開館当時から今日にいたるまで利用時間が群を抜いてダントツ1番ではないかという、岩永省三さん取材しました。

平日の朝10時から夕方16時頃まで、会議室から心地よい笛の音色が聞こえてくることがあります。岩永省三さんのよし笛です。岩永さんは元々、淀川の中洲にあるヨシ原（鶴殿のヨシ原）の保全活動に参加していて、その後、『びわこヨシ松まつり』にて偶然にもよし笛の演奏を聴き、「ヨシからこんな音色がでるんだなあ」と感動。その場で惚れてしまったのだとか。すぐにその演奏をしていたアンサンブルの人達からよし笛について根掘り葉掘り聞いて、よし笛を自作。最初の頃は家で作っては橋の下や植物園などで調音・演奏をしていたそうですが、不便だと思っていたところに当センターが開館。会議室を週に何度も借りては、これまでに約200本のよし笛を作り、今に至るというわけですね。

しかし、分からないことが段々と分かり始めてくると、「二人でやっても仕方がない。このよし笛の感動を人と分かち合いたい。」と思うようになってきたそうです。興味を持ってくれる人がいたら吹いてみてもらったり、あるいは作る人を増やしたり、コンサートに参加したり、プレゼンしてみたり……。そうすると色々な繋がりが出来てきて、ついには演奏グループ『出町よし笛アンサンブルせりりゅう』を4年前に結成。また、他の地域の人達にも、アンサンブルを立ち上げるよう声かけもされました。岩永さんは今年11月、合計5つのアンサンブルに声をかけ、当センターの会議室で、『よし笛秋の集い』というコンサートを開催。参加者・来場者のべ約80名の大盛況。アンサンブル間の良い刺激にもなり、来年開催への期待の声も多く聞かれました。

「ものづくりは音づくりだからね。良い音色だというのは人によって違う。キリがない。けれどもそれも魅力だし、なんでもない自然のものからこんなにも綺麗な音が出て、それを誰かが吹いて喜んでくれたら、それはとても嬉しい。その感動や、よし笛の輪をこれからも広めていけたらと思うね。」

①高い音が美しいよし笛の良さを活かした童謡や、懐かしいフォークなどの楽曲を演奏。②「よし笛工作の道具を見せてください」と頼んで見せてもらった道具たち。よし笛のリード部分を削るナイフやヤスリなど様々。ヨシの型や特徴によって使い分けているという。③11月8日に開催された『よし笛秋の集い』では、子どもからシニアまで、様々な世代の演奏者が集合し、日々の練習の成果を披露。



岩永省三さん

よし笛歴約10年。よし笛の楽しさや魅力を広め、伝えることを目標に活動。よし笛工作、よし笛演奏ともに、参加者募集中。ご興味のある方はまずは当館までご連絡ください。



今号の
IKI IKI PEOPLE